YAMAHA News Release ヤマハ株式会社

2013 年 9 月 12 日

プリ/パワーのセパレート構成で 11.2ch 再生の真髄に迫る
ヤマハ AV アンプの新たなフラッグシップモデル

AVENTAGE

ヤマハ　AV プリアンプ『CX-A5000』
ヤマハ　パワーアンプ『MX-A5000』

ヤマハ株式会社は、プリアンプとパワーアンプを独立させたセパレート構成で 11.2ch 再生の真髄に迫るヤマハ AV アンプの新たなフラッグシップモデルとして、AVENTAGE（アベンタージュ）シリーズの 11.2ch AV プリアンプ『CX-A5000』（B）ブラックおよび 11ch パワーアンプ『MX-A5000』（B）ブラックの 2 機種を 10 月上旬より、『CX-A5000』（H）チタンおよび『MX-A5000』（H）チタンの 2 機種を 12 月中旬より、それぞれ全国で発売いたします。

＜価格と発売時期＞

品名	モデル名	色	希望小売価格＜税込＞	当初月産 予定台数	発売日
AVプリアンプ	CX-A5000	（B）ブラック、（H）チタン	262,500円 （本体価格250,000円）	300台	（B）ブラック 10月上旬 （H）チタン　12月中旬
パワーアンプ	MX-A5000	（B）ブラック、（H）チタン	315,000円 （本体価格300,000円）	300台	（B）ブラック 10月上旬 （H）チタン　12月中旬

＜製品の概要＞

今回発売する AV プリアンプ『CX-A5000』、パワーアンプ『MX-A5000』は、これまで当社が AVENTAGE シリーズや Z シリーズなどの高級 AV アンプ開発で培ってきたオーディオ技術と音場創生技術を集大成した、セパレート構成の 11.2ch フラッグシップ AV アンプです。『CX-A5000』には ESS 社製 32bit ハイグレード D/A コンバーターや DSP-Z11 以来となるシネマ DSP HD^3（エイチディ キュービック）フルプログラムを、また『MX-A5000』には定格出力 230W/ch の全チャンネル同一出力による電流帰還型 11ch パワーアンプを搭載。当社製 AV アンプとしては 1991 年発売の AVC-3000DSP/AVM-3000 から約 22 年ぶりのセパレート構成を採用することで、プリアンプとパワーアンプそれぞれの音・臨場感・操作性を極限まで高めるとともに、プリアンプ部またはパワーアンプ部単独での買い増し・買い替えをも可能にし、充実したシアターライフを長くお楽しみいただくための将来性にも配慮しました。『CX-A5000』『MX-A5000』は、フラッグシップモデルだからこそ実現できた圧倒的な高音質と臨場感、そして長期にわたって約束される真の感動を、すべてに最高を求めるシアターファイルの皆様に向けてお届けします。

【CX-A5000 主な特長】

１． 高音質

・Z/AVENTAGE シリーズで実績を積んだ高剛性シャーシと＜5 番目の脚＞

・3 回路分離型パワーサプライ、ヤマハカスタムメイドトランスなど音質最優先の電源部

・ESS 社製 32bit DAC×2 基、独自の D.O.P.G.コンセプトを採用した高品位なオーディオセクション

・ノイトリック社製金メッキ仕様 XLR 端子を採用したバランス接続対応 11ch プリアウト、オーディオ専用バランス入力を装備

・ハイレゾリューション・ミュージックエンハンサー

２． 臨場感

・3 次元立体音場再生の最高峰、シネマ DSP HD^3 のフルプログラムを搭載

・部屋の音響特性をより積極的に改善する YPAO-R.S.C.

３． 映像処理回路

・高画質再生の基礎＝I/P 変換のクオリティを独自技術によって追求

４． ネットワークオーディオ

・AirPlay はもちろん、Android 端末からのワイヤレス音楽再生にも対応

・WAV/FLAC・192kHz/24bit 対応ネットワークレシーバー機能

５． 操作性

・快適操作と美しい画面が魅力の専用アプリケーション
「AV CONTROLLER」に対応

・パソコンのブラウザー上で操作できるウェブコントロールセンター

・お気に入りの設定を瞬時に呼び出せる SCENE 機能

６． 発展性

・4K Ultra HD 映像や MHL などの最新フォーマットに対応

・別室などでメインルームと異なるコンテンツが楽しめる HDMI ゾーンスイッチング

・*Bluetooth*®ワイヤレスオーディオレシーバーYBA-11（別売）に対応

AVプリアンプ『CX-A5000』(B)ブラック

【MX-A5000 主な特長】

1. 高音質

・Z11 譲りの H 型リジッドフレームと＜5 本目の脚＞による強靭な構造体

・定格 230W/ch、全チャンネル同一出力の 11ch 電流帰還型パワーアンプ

・大型トロイダルトランスを中心に据えた大容量電源部

2. 接続・拡張性

・バランス接続対応 11ch 入力端子、
真鍮削り出し金メッキスピーカー端子を装備

・チャンネルセレクター機能が実現する多彩なスピーカーアサイン

3. 操作性

・AV プリアンプやサブウーファーとの電源連動が可能なトリガー入出力

・電源の切り忘れを防止するオートスタンバイ

パワーアンプ『MX-A5000』(B)ブラック

【CX-A5000 主な特長】

1. 高音質

・Z/AVENTAGE シリーズで実績を積んだ高剛性シャーシと＜5 番目の脚＞

H 型クロスフレーム＆ダブルボトム構造で理想の機械的強度を発揮する制振・高剛性シャーシ、設置安定性を高めて筐体の共振を効果的に分散する独自のアンチレゾナンステクノロジー(Anti Resonance Technology)による＜5 番目の脚＞など、Z シリーズや AVENTAGE シリーズで実績を積んだ筐体設計技術を投入。ヤマハ AV アンプの伝統というべき圧倒的な音の静寂性を支えています。さらにボディ両サイドにはデザイン性を高め、筐体全体の制振にも貢献するアルミ押し出し材サイドパネルを装着しました。

アルミサイドパネル採用

アンチレゾナンステクノロジーによる＜5番目の脚＞

・3 回路分離型パワーサプライ、ヤマハカスタムメイドトランスなど音質最優先の電源部

オーディオ回路、デジタル回路、FL ディスプレイ回路のそれぞれに専用電源を割り当てた 3 回路分離型パワーサプライを搭載し、各回路間の相互干渉を防いで全動作モードでの S/N を大幅に向上させました。加えて、本機専用にカスタムメイドされた銅メッキカバー一体型の電源トランス（EI 型）や余裕を持った電源ブロック、電源供給の最短化と磁場効果の低減を目指した給電レイアウト、出力ステージ前の信号を純化するバランス出力回路専用電源などにより、AV プリアンプに求められる繊細な音から最大の音までの余すことなき情報再現力を獲得しています。

銅メッキカバー一体型電源トランス

・ESS 社製 32bit DAC×2 基、独自の D.O.P.G.コンセプトを採用した高品位なオーディオセクション

ESS 社製 32bit ハイグレード 32bit DAC「SABRE^{32} Ultra DAC ES9016」を全 11.2ch 用として 2 基搭載。入力部と D/A コンバーター部の電位差を解消して微小信号の再生品位を高める D.O.P.G.（DAC on Pure Ground）コンセプトとともに、卓越した微小信号の再現性とディテール表現力、そして大音量時におけるダイナミクスの忠実な再現を目指しました。さらにデジタルフィルターの特性は「シャープロールオフ」「スローロールオフ」、そしてヤマハのカスタムセッティングである「ショートレイテンシー」の 3 タイプから選択可能。お好みの音質傾向をお選びいただけます。

ESS社製ハイグレード32bit DAC×2基

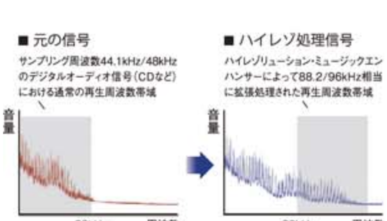
・ノイトリック社製金メッキ仕様 XLR 端子を採用したバランス接続対応 11ch プリアウト、オーディオ専用バランス入力を装備

11ch プリアウトは通常の RCA コンポジット（アンバランス）端子に加えて、XLR 端子によるバランス出力にも対応。『MX-A5000』をはじめとするバランス入力端子付きパワーアンプとの組み合わせで、ノイズの影響を受けにくい信号伝送を実現します。加えて、「CD-S3000」などバランス出力を備えた機器との高音質接続が可能な XLR バランス入力端子も装備。全バランス入出力端子には、ヤマハの業務用ミキシングコンソールでも実績を積んだノイトリック（NEUTRIK）社製の金メッキ仕様 XLR 端子を採用しています。

ノイトリック社製金メッキ仕様XLR端子

・ハイレゾリューション・ミュージックエンハンサー

圧縮音声を活き活きと再現する通常のミュージックエンハンサーに加えて、非圧縮（CD、WAV）および可逆圧縮（FLAC）音声を最大 96kHz/24bit 分解能まで拡張処理するハイレゾリューション・ミュージックエンハンサーを搭載。オーディオソースから、よりデリケートな音楽的表現を引き出します。

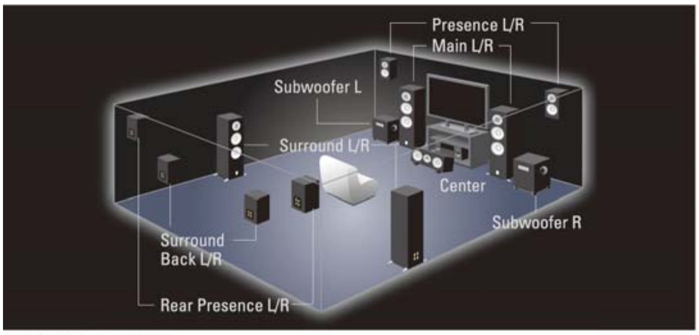


ハイレゾリューション・ミュージックエンハンサー

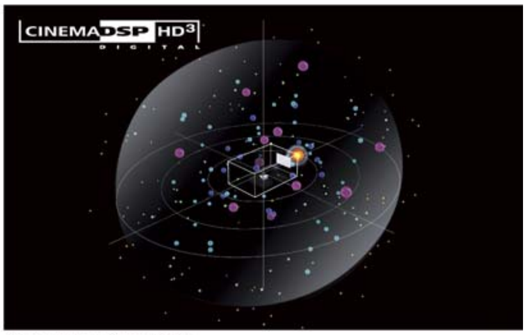
2. 臨場感

・3 次元立体音場再生の最高峰、シネマ DSP HD^3 のフルプログラムを搭載

フロント/リアプレゼンススピーカーを含む最大 11.2ch スピーカー構成と、通常のシネマ DSP を大きく上回る圧倒的な情報密度を駆使して、音場の高さ方向を加えた空間情報の完全再現を目指す 3 次元立体音場再生の最高峰＝シネマ DSP HD^3（エイチディ キュービック）。『CX-A5000』では、その 11.2ch 再生を『MX-A5000』との組み合わせで実現します。サラウンドプログラムは、これまで DSP-Z11 のみに搭載されていたシネマ DSP HD^3 専用の 10 プログラムを新たに加えた計 33 プログラム。さらに、仮想のプレゼンススピーカーを空間上に生成する VPS（バーチャル・プレゼンス・スピーカー）機能がフロントプレゼンススピーカーなしでの 3D 再生を可能にするほか、フロントプレゼンススピーカーを含む 7.1ch スピーカー構成では VPS 機能が仮想のリアプレゼンススピーカーを生成してシネマ DSP HD^3 再生を実現するなど、11.2ch 再生をより身近なものにします。



11.2chスピーカー設置図

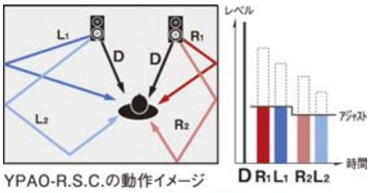


シネマDSP HD^{3}音場概念図
● は直接音、他の球体は反射音の分布を表しています。

・部屋の音響特性をより積極的に改善する YPAO-R.S.C.

初期反射音を厳密に制御してホームシアターの臨場感を飛躍的に高める「YPAO-R.S.C.」、複数の計測ポイントからのデータを総合的に判断して計測精度を向上させる「マルチポイント計測」、室内の音響特性に合わせてシネマ DSP 効果を最適化する「DSP エフェクトレベルノーマライズ」、視聴位置とスピーカーとの位置関係を把握して調整に反映できる「スピーカー角度計測」といった高度な計測・調整機能を、視聴環境最適化システム「YPAO」で実現。専用施工されたシアタールームで楽しむような理想の視聴環境を簡単な操作で再現できる、ヤマハだけの先進機能です。

＊ R.S.C.= Reflected Sound Control



YPAO-R.S.C.の動作イメージ
室内の壁や床からの不規則な初期反射音はオーディオ（シアター）再生に悪影響を及ぼす原因のひとつです。YPAO-R.S.C.は左右のスピーカーの設置環境が異なる場所での不規則な初期反射音（左図）をデジタル音場処理技術で補正（右図）し、よりバランスの整った視聴空間をつくり出す事ができます。

3. 映像処理回路

・高画質再生の基礎＝I/P 変換のクオリティを独自技術によって追求

動き適応型/エッジ適応型デインターレース、マルチケイデンス検出、ディテール＆エッジ強調、映像信号調整に対応したヤマハオリジナルの映像処理回路を搭載。ハイエンド・ビデオプロジェクターなどの開発で培った 3 次元動き適応型 I/P 変換をはじめとする独自の映像処理技術を投入することで、高画質再生の基礎と言うべき I/P 変換のクオリティにも改めてこだわりました。加えて、映像処理回路を必要に応じて完全にバイパスし、ビデオゲームなどで気になる映像の遅延を排除するビデオダイレクト機能も装備しています。

さまざまな解像度の映像コンテンツを高品位な1080p信号や4K Ultra HD信号に変換してテレビに出力（コンポーネント入力1080p信号のみパススルー）。ヤマハの映像処理技術を生かした高精度なI/P変換で最善の画質を実現します。

4. ネットワークオーディオ

・AirPlay はもちろん、Android 端末からのワイヤレス音楽再生にも対応

お手持ちの iPod touch/iPhone/iPad やパソコン内の iTunes ライブラリーに保存された音楽コンテンツをストリーミング再生できる AirPlay に対応。さらに専用アプリケーション「AV CONTROLLER」（詳細は後述）を使えば、iPod touch/iPhone/iPad に加えて Android 対応スマートフォン/タブレット内の音楽コンテンツについてもワイヤレスでの高音質ストリーミング再生が楽しめます。

iTunesライブラリーをストリーミング再生するAirPlayの概念図

・WAV/FLAC・192kHz/24bit 対応ネットワークレシーバー機能

NP-S2000 に象徴されるヤマハの高音質ネットワークオーディオ技術を活かした WAV/FLAC・192kHz/24bit 再生対応、DLNA1.5 準拠のネットワークレシーバー機能を内蔵。お手持ちのパソコンや NAS（ネットワーク HDD）にストックした音楽コンテンツをピュアオーディオグレードの高音質で再生できるほか、インターネットラジオが快適に楽しめる vTuner にも対応しています。

vTuner internet radio

5. 操作性

・快適操作と美しい画面が魅力の専用アプリケーション「AV CONTROLLER」に対応

iPod touch/ iPhone/iPad や Android 端末を使って AVENTAGE の操作が行える[*1] 専用アプリケーション「AV CONTROLLER[*2]」に対応。電源オン/オフや音量調整、入力ソース選択、シネマ DSP のサラウンドモード選択、本機に入力された AV コンテンツを別室のシステムで同時に楽しめるゾーン機能などをリモコン感覚で快適にコントロールできるほか、iPod touch/iPhone/iPad や Android スマートフォン/タブレット内の音楽コンテンツを高音質でワイヤレス再生できるヤマハオリジナルの音楽再生機能も搭載しています。動作が緩慢になりがちなネットワークオーディオの選曲もサクサク動く快適な操作感、タブレットの縦横切り替え表示に対応した機能的で美しい画面も魅力です。

＊1：本機と無線LANルーターとの有線接続が必要です。
＊2：iOS 4.2以降がインストールされたiPod touch（第3世代以降）／iPhone（3GS以降）／iPad、Android OS2.1以上に対応。iOS版はApp Storeから、Android版はGoogle Playから、それぞれ無償でダウンロードできます。

専用アプリケーション「AV CONTROLLER」の操作画面例（タブレット）

・パソコンのブラウザー上で操作できるウェブコントロールセンター

お手持ちのパソコンの標準ウェブブラウザー[*3] を使って本機を操作できる[*4]「ウェブコントロールセンター」を搭載。見やすいコントロールパネル（操作画面）で本機の動作状態を確認しながら、確実な操作が行えます。

＊3：動作確認済みウェブブラウザーはInternet Explorer 8.0以降です。
＊4：パソコンを接続しLANルーターと本機との有線接続が必要です。

ウェブコントロールセンター画面例

・お気に入りの設定を瞬時に呼び出せる SCENE 機能

シネマ DSP プログラムや音量/音質調整、パワーアンプアサインなどの各種設定を入力ソースごとに記憶してワンタッチで呼び出せる SCENE（シーン）機能。視聴したいソースのボタンを１回押すだけで AV レシーバーの電源がオンになり、再生環境のセットアップが瞬時に完了します。

リモコンの「シーンボタン」でダイレクト選択

6. 発展性

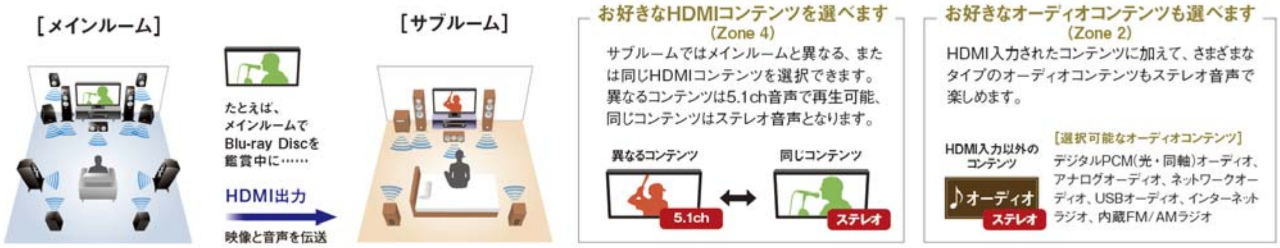
・4K Ultra HD 映像や MHL などの最新フォーマットに対応

4K Ultra HD パススルー＆アップスケーリング、およびアナログ映像信号の HDMI へのアップコンバージョンに対応。さらに、MHL 対応の携帯端末[*5] を接続して最大フル HD（1080p）映像/最大 7.1ch マルチチャンネル音声の伝送や本機側リモコンでの端末操作[*6] などを実現するフロント MHL（Mobile High-Definition Link）[*7] 接続、*Bluetooth* オーディオ再生（別売「YBA-11」使用）にも対応しています。

＊5：MHL（Mobile High-definition Link）とは米 Silicon Image 社が開発した、携帯端末から高速での映像及び音声伝送が可能になるインターフェイス規格です。
＊6：モバイル機器やアプリケーションによっては一部の機能を操作できない場合があります。
＊7：MHL に対応した HDMI 端子は入力 8 系統のうちの 1 系統（フロント）となります。

・別室などでメインルームと異なるコンテンツが楽しめる HDMI ゾーンスイッチング

本機を設置した部屋（メインルーム）でシアター再生を楽しみながら、メインルームと異なる任意の AV コンテンツを、寝室やキッチンなどの別室に設置した HDMI 対応テレビやホームシアターに伝送して同時再生できる「HDMI ゾーンスイッチング」に対応。HDMI 入力された AV コンテンツはもちろん、デジタルまたはアナログ入力されたオーディオコンテンツ、内蔵ネットワークレシーバー（インターネットラジオ、USB オーディオ含む）、内蔵 FM/AM のいずれかを選んで伝送することも可能になりました。別室の HDMI 対応テレビや AV アンプ、YSP などでメインルームと同じ、または異なるコンテンツを楽しめるので、寝室やキッチンに移動して作品の続きを観賞したり、家族が別々のコンテンツを楽しむときに便利です。



・*Bluetooth*®ワイヤレスオーディオレシーバーYBA-11（別売）に対応

スマートフォンなどの *Bluetooth*®対応機器内の音楽コンテンツのワイヤレス再生を実現する、別売の *Bluetooth*®ワイヤレスオーディオレシーバー「YBA-11」に対応。Wi-Fi 環境を必要とせず、より手軽にワイヤレス音楽再生が楽しめます。また「YBA-11」からの音声出力は同軸デジタル接続で CX-A5000 に入力されるため、内蔵の ESS DAC を活かした高音質再生が期待できます。

【その他の特長】 ●外部デジタル音声に含まれるジッター成分を除去して再生品位を高めるウルトラロージッターPLL回路●高音質を支えるカスタムメイドの鋳鉄製レッグ●シネマDSPの効果やダイナミックレンジを音量調整に合わせて自動的に制御するアダプティブDSPレベル&アダプティブDRC技術●サラウンド再生がお手持ちのヘッドホンで楽しめるサイレントシネマ●4K Ultra HD/3D映像伝送* やオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応した8入力/2出力のHDMI端子●音声信号経路を最短化して入力ソースの音をありのままに再現するピュアダイレクトモード●一定時間使用しないと自動的に電源が切れるオートパワーダウン●お手持ちのiPod/iPhone/iPadのデジタル音声接続に対応した前面USB端子●40局プリセット対応FM/AMチューナー●MM対応フォノイコライザー

＊3D映像信号のパススルーはフレームパッキング、サイドバイサイド、トップアンドボトムの各方式に対応しています。

【MX−A5000 主な特長】

1．高音質

・Z11 譲りの H 型リジッドフレームと＜5 本目の脚＞による強靱な構造体

厚さ 1.6mm の鋼板を使用したサブシャーシと H 型メインフレーム、そして外周部を巡るアウターフレームの 3 要素を強固に結合し、外板に依存することなく完全な機械的強度が得られる DSP−Z11 譲りの H 型リジッドフレーム構造を採用。さらに、設置安定性を高めて筐体の共振を効果的に分散するアンチレゾナンステクノロジー(Anti Resonance Technology)による＜5 番目の脚＞を重心点付近に装着しています。またボディ両サイドには『CX−A5000』と共通のアルミ押し出し材サイドパネルを装着し、デザイン性を高めるとともに筐体の振動共振軽減にも貢献しています。

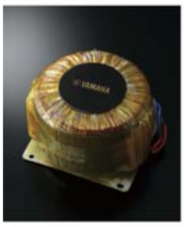
H型リジッドフレーム

・定格 230W/ch、全チャンネル同一出力の 11ch 電流帰還型パワーアンプ

ワイドレンジで高スルーレート、NFB や位相補償を最小限に抑えた音質最優先の 3 段ダーリントン出力段・電流帰還型パワーアンプ回路を DSP−Z11 から継承。さらに『MX−A5000』では新たに 11ch すべてを定格 230W/ch（6Ω）の全チャンネル同一出力で統一するとともに、4Ω までのローインピーダンス駆動に対応。左チャンネル系と右チャンネル系のパワーアンプブロックを左右対称に配置したシンメトリーな内部レイアウトによってチャンネルセパレーションを最大限に高めました。11.2ch をひとつの空間として描き切る圧倒的な力感と静けさで、シネマ DSP HD^3 の臨場感を余すことなく再現します。

・大型トロイダルトランスを中心に据えた大容量電源部

電源部には、電源伝達効率に優れた本機専用の大型トロイダルトランスと、27000μF×2 の大容量ブロックケミコンを搭載。制御系電源をオーディオ系電源から分離するなどローノイズ化も徹底させ、あらゆるタイプのスピーカーを理想的に駆動する卓越したドライバビリティとヤマハ AV アンプの伝統である音の静寂性、そして音楽の自然な響きや余韻の再現性を最高度に達成しています。



大型トロイダルトランス

27000μ大容量ブロックケミコン

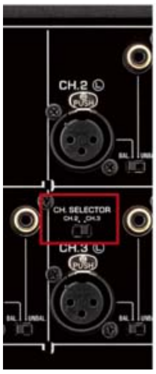
2．接続・拡張性

・バランス接続対応 11ch 入力端子、真鍮削り出し金メッキスピーカー端子を装備

音声入力は RCA コンポジット（アンバランス）端子に加え、XLR 端子によるバランス入力にも対応。『CX−A5000』をはじめとするバランス出力端子付きプリアンプとの組み合わせで外来ノイズに強い音声伝送を実現するほか、グラウンドセンシング方式への対応により、『CX−A5000』とのアンバランス接続時にもノイズの影響を低減しています。すべてのバランス入出力端子には、ヤマハの業務用ミキシングコンソールでも実績を積んだノイトリック製の金メッキ仕様 XLR 端子を採用。またスピーカー出力端子には、Y ラグ端子にもバナナプラグにも対応する真鍮削り出しの金メッキ・スクリュー式ターミナルを採用しています。

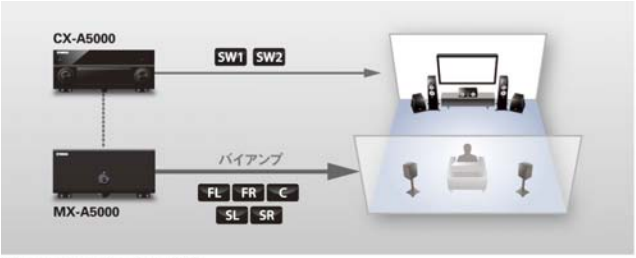
・チャンネルセレクター機能が実現する多彩なスピーカーアサイン

11 の入力系統を隣接する 5 グループに分け、各端子脇のセレクタースイッチを使ってグループ内の他の入力系統に信号を分配することができます。たとえば 5ch 分のスピーカーをすべてバイアンプ駆動にしたり(下図「接続例 1」)、センタースピーカーを最大 3 台並べて使用する、といった多彩なスピーカーアサインをケーブルのつなぎ換えなしで実現。お使いになるシステムが 11.2ch スピーカー構成でなくても、本機のポテンシャルを無駄なく活かすことができます。さらに使用しないチャンネルのパワーアンプをサブルーム用に割り当て、寝室やキッチンに置いたスピーカーを駆動することも可能です。(下図「接続例 2」)。

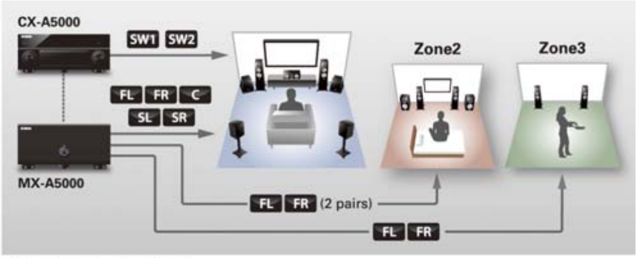


バランス入力端子のグループごとに装備されたチャンネルセレクタースイッチ

たとえば、画像のCH3入力部の「CH2/CH3」スイッチを、「CH2」側にするとCH2に入力された信号をCH3側パワーアンプに分配し、バイアンプ駆動がスイッチひとつで選択できます。



接続例1<5chバイアンプ接続>



接続例2<マルチゾーン接続>

3. 操作性

・AV プリアンプやサブウーファーとの電源連動が可能なトリガー入出力

同時発売の AV プリアンプ『CX-A5000』と連動して本機の電源オン/オフが行えるトリガー入出力端子を装備。当社製パワードサブウーファーなども含めたシステム全体の電源連動を実現します。

・電源の切り忘れを防止するオートスタンバイ

電源投入から 8 時間後に本機(トリガー出力端子に接続されたシステム機器を含む)の電源がオフになるオートスタンバイが無駄な電力消費を防止。オートスタンバイは本機のリアパネルにあるスイッチで設定/解除できます。

トリガー入出力端子

【その他の特長】 ●中央に大型パワースイッチを配した印象的なデザインのアルミフロントパネル●高音質を支えるカスタムメイドの鋳鉄製レッグ●前面スピーカーA/B 切り換えスイッチ(CH2 L/R 入力に対応)

長期製品保証

長期間にわたり安心してご愛用いただけるよう、お買い上げ日より満 5 年間のメーカー製品保証を「AVENTAGE」全製品に標準で付与いたしました。

製品の販売について

『CX-A5000』および『MX-A5000』の予約受付は、2013 年 9 月 20 日(金)より随時開始予定*です。
充実した試聴環境と設置ノウハウを持つ販売店とのパートナーシップのもと、音楽を愛好する皆様が製品の価値を十分に納得されてご購入いただけますよう、努力してまいります。

＊実際の予約受付開始日につきましては、各販売店により決定されます。

『CX-A5000』『MX-A5000』に伝統のチタンカラーモデルも用意

AV プリアンプ『CX-A5000』 カラー:(H)チタン

パワーアンプ『MX-A5000』 カラー:(H)チタン

<チタンカラー概要>

今回発売する『CX-A5000』『MX-A5000』の外装色には、通常の(B)ブラックに加えて、1990 年代を中心にヤマハ製 AV アンプやオーディオコンポーネントなどに広く採用されていた伝統の(H)チタンカラーも用意しました。グレーメタリック調の深い色合いにホワイトのレタリングが映える、クールで洗練された佇まいをお楽しみください。なお、チタンカラーモデルの性能・機能はブラックモデルと共通、発売時期は 12 月中旬を予定しています。

http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/av-amplifiers/

チタンカラーを採用した歴代ヤマハ AV アンプの系譜 （ご参考）

1990 年代、ヤマハ AV アンプのメインカラーとして親しまれた「チタンカラー」。2000 年代以降、ホームシアターの一般化とともにヤマハ AV アンプの外装色もトレンドに即したゴールドへ、そしてブラックへと遷り変わっていきました。しかし、クールで洗練されたその佇まいは今なお世界中のヤマハファンの記憶に残り続け、現在も海外の一部地域向けにチタンカラーモデルを生産・出荷しています。ヤマハでは、2012 年秋に限定販売した「RX-A3020 チタン」（生産完了品）に続き、今回発売する『CX-A5000』『MX-A5000』にも日本国内向けチタンカラーモデルを設定。その系譜に新たな 1 ページが書き加えられました。ここでは、伝統のチタンカラーを採用した日本国内向け AV アンプの歴代モデルをご紹介します。

1990年

AVX-2000DSP DSP AV Amplifier

独自の DSP 技術とサラウンドデコーダーとを融合した
映画のための革新的な音場創生技術＝CINEMA-DSP を
初搭載した 7ch パワーアンプ内蔵の最高級 AV アンプ。

1991年

AVC-3000DSP DSP/AV Control Amplifier

パワーアンプ部（AVM-3000）をセパレート化し、
CINEMA-DSP 再生の可能性を限りなく追い求めた
フル 7ch 仕様の超弩級 AV コントロールアンプ。

1992年

AVX-2200DSP DSP AV Amplifier

DSP セパレートアンプ 3000 シリーズの開発成果を継承。
CINEMA-DSP の音場再現力を劇的に進化させた
ドルビープロロジック世代 DSP AV アンプの最高峰。

1995年

DSP-A3090 DSP AV Amplifier

ドルビーデジタルによる 5.1ch デジタルサラウンドを
いち早く搭載。CINEMA DSP との相乗効果で、圧倒的な
臨場感を聴かせたデジタル時代の 7.1ch AV アンプ。

1997年

DSP-A1 DSP AV Amplifier

DTS サラウンドデコーダーを世界で初めて搭載。
最高音質、最高機能のフルフォーマット対応機として
シアターファンの羨望を集めた伝説のフラッグシップ。

2012年

RX-A3020 AV Receiver

3 次元立体音場再生の最高峰＝シネマ DSP HD3 を搭載し、
最大 11.2ch までの拡張に対応するハイエンド 9.2ch 機。
チタンカラーモデルは 100 台の数量限定で復活しました。

歴代フラッグシップ AV アンプについては当社ホームページもご参照ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/special/cinema_dsp/series/

＜CX-A5000 主な仕様＞

<table>
<tr><td colspan="3">型番</td><td>CX-A5000</td></tr>
<tr><td colspan="3">HDMI 入力</td><td>8(MHL 対応前面入力1)</td></tr>
<tr><td colspan="3">HDMI 出力</td><td>2(同時出力可、Zone2/4 出力可)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">音声入力</td><td rowspan="2">アナログ</td><td rowspan="2">11 系統</td><td>2ch RCAアンバランス9(前面入力1、PHONO1含む)、XLR バランス1(1:アース、2:HOT、3:COLD)</td></tr>
<tr><td>マルチチャンネル 1 (8ch)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">デジタル</td><td rowspan="2">7 系統</td><td>光 4 (前面入力 1)</td></tr>
<tr><td>同軸 3</td></tr>
<tr><td colspan="2">音声入力(その他)</td><td>2 系統</td><td>USB[※1] 1 (前面入力 1)、Ethernet 1</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="4">映像入力</td><td rowspan="4">14 系統</td><td>コンポーネントビデオ 4</td></tr>
<tr><td>D4 端子 1</td></tr>
<tr><td>S ビデオ 4</td></tr>
<tr><td>コンポジットビデオ 5 (前面入力 1)</td></tr>
<tr><td rowspan="5">音声出力</td><td rowspan="2">PRE OUT</td><td>RCA
アンバランス</td><td>11.2ch :フロント L/R、センター、サラウンド L/R、サラウンドバック L/R、
フロントプレゼンス L/R、リアプレゼンス L/R[※2]
サブウーファー OUT 2、(STEREO、FRONT&REAR、MONO×2)</td></tr>
<tr><td>XLR
バランス</td><td>11ch :フロント L/R、センター、サラウンド L/R、サラウンドバック L/R、
フロントプレゼンス L/R、リアプレゼンス L/R[※2]
1:アース、2:HOT、3:COLD</td></tr>
<tr><td colspan="2">ZONE OUT</td><td>ZONE 2、ZONE 3[※2]</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他の音声出力</td><td>AV OUT 2(アナログ RCA 2ch 1/光 1)</td></tr>
<tr><td colspan="2">ヘッドホン出力</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="3">モニター出力端子</td><td rowspan="3">MONITOR OUT/
ZONE OUT</td><td rowspan="3">3 系統</td><td>コンポジットビデオ 1</td></tr>
<tr><td>S ビデオ 1</td></tr>
<tr><td>コンポーネントビデオ 1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">映像出力端子</td><td rowspan="2">AV OUT</td><td rowspan="2">2 系統</td><td>コンポジットビデオ 1</td></tr>
<tr><td>S ビデオ 1</td></tr>
<tr><td colspan="3">HDMI アップスケーリング</td><td>4KUltraHD 対応</td></tr>
<tr><td colspan="3">シネマ DSP プログラム数</td><td>33</td></tr>
<tr><td colspan="3">消費電力</td><td>80W</td></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="3">待機時消費電力</td><td>HDMI コントロールオフ/スタンバイスルーオフ時 0.3W 以下</td></tr>
<tr><td>HDMI コントロールオン、スタンバイスルーオン時 5.0W 以下</td></tr>
<tr><td>ネットワークスタンバイ オン時 2.2W 以下</td></tr>
<tr><td colspan="3">寸法(幅×高さ×奥行)</td><td>435W×192H×448Dmm</td></tr>
<tr><td colspan="3">質量</td><td>13.6kg</td></tr>
<tr><td colspan="3">付属品</td><td>リモコン、単 4 乾電池(4 本)、AM アンテナ、FM アンテナ、YPAO 用マイク、
マイクベース、電源コード、取扱説明書、セットアップガイド</td></tr>
</table>

※1:iPod/iPhone/iPad、および USB メモリー内ファイルの音声再生用。USB DAC としての機能はありません。

※2:Zone3 出力が有効となる時は R.Presence からの音声は出力されません。

＜MX-A5000 主な仕様＞

<table>
<tr><td colspan="2">型番</td><td>MX-A5000</td></tr>
<tr><td rowspan="2">定格出力</td><td>20Hz-20kHz、2ch 駆動</td><td>170W/ch (6Ω、0.06%THD)</td></tr>
<tr><td>1kHz、1ch 駆動</td><td>230W/ch (6Ω、0.9%THD)</td></tr>
<tr><td>実用最大出力(JEITA)</td><td>1kHz、1ch 駆動</td><td>280W/ch (6Ω、10%THD)</td></tr>
<tr><td colspan="2">内蔵パワーアンプ数</td><td>11</td></tr>
<tr><td>音声出力</td><td>スピーカー出力</td><td>11ch 13 端子(Ch1(1ch)、Ch2 L/R(A)、Ch2 L/R(B)、Ch3 L/R、Ch4 L/R、Ch5 L/R、Ch6 L/R」)</td></tr>
<tr><td colspan="2">音声入力端子</td><td>RCAアンバランス 11、XLRバランス 11(1:アース、2:HOT、3:COLD)</td></tr>
<tr><td colspan="2">トリガー端子</td><td>出力1、入力1、スルーアウト1</td></tr>
<tr><td colspan="2">消費電力</td><td>650W</td></tr>
<tr><td colspan="2">待機時消費電力</td><td>0.1W 以下</td></tr>
<tr><td colspan="2">寸法(幅×高さ×奥行)</td><td>435W×210H×463.5Dmm</td></tr>
<tr><td colspan="2">質量</td><td>25.4kg</td></tr>
<tr><td colspan="2">付属品</td><td>電源コード、システム接続ケーブル、取扱説明書</td></tr>
</table>

ヤマハ　AV プリアンプ『CX-A5000』 カラー:(B)ブラック、(H)チタン

希望小売価格<税込 262,500 円(本体価格 250,000 円)

※CX-A5000 の画像データは下記ウェブサイトよりダウンロードできます。
http://jp.yamaha.com/news_release/

ヤマハ　パワーアンプ『MX-A5000』 カラー:(B)ブラック、(H)チタン

希望小売価格＜税込＞315,000 円(本体価格 300,000 円)

※MX-A5000 の画像データは下記ウェブサイトよりダウンロードできます。
http://jp.yamaha.com/news_release/

この件に関するお問い合わせ先

ヤマハ株式会社

■報道関係の方のお問い合わせ先
広報部　 宣伝・ウェブコミュニケーショングループ
窪井、千葉
〒108-8568 東京都港区高輪 2-17-11
TEL ０３－５４８８－６６０５
FAX ０３－５４８８－５０６３
ウェブサイト http://jp.yamaha.com/news_release/
（取材申し込みや広報資料請求が可能です。）

■一般の方のお問い合わせ先
株式会社ヤマハミュージックジャパン　 カスタマーサポート部
お客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口
〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町 10-1
TEL ０５７０－０１１－８０８（ナビダイヤル：全国どこからでも市内通話料金）
TEL ０５３－４６０－３４０９（携帯電話、PHS、IP 電話でご利用の場合）